

ベトナム国

交通警察官研修強化プロジェクト  
中間評価調査報告書

平成 24 年 5 月  
(2012 年)

独立行政法人 国際協力機構

ベトナム事務所

ベト事
JR・CR( )
12-64



## 序文

独立行政法人国際協力機構は、ベトナム社会主義共和国政府との討議議事録（R/D）に基づき、技術協力プロジェクト「交通警察官研修強化プロジェクト」を2012年4月から3年間の計画で実施しています。

今般、プロジェクト開始からちょうど2年間を経過した2012年4月16日から25日までの間、日本及びベトナム側による合同評価を通じて、協力期間前半における活動実績の確認と評価及び後半に向けた課題の抽出と提言を行うことを目的として、JICA 国際協力専門員 勝田 穂積を団長とする中間評価調査団を現地に派遣しました。

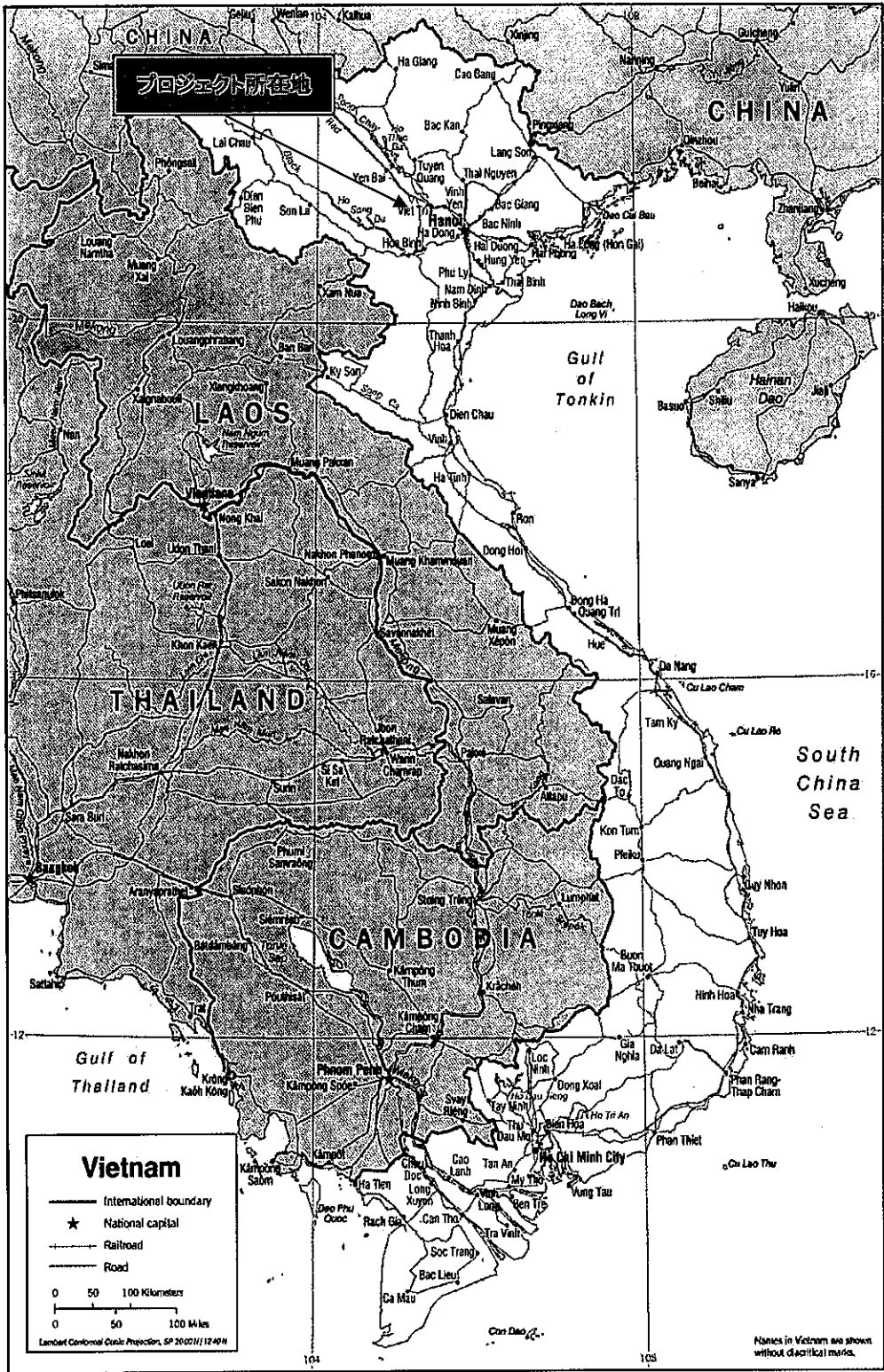
本報告書は、これらの中間評価調査団による現地調査や協議の内容・結果をまとめたものであり、今後のプロジェクト運営に広く活用されることを願うものです。

最後に、調査の実施にあたりご協力をいただいた内外の関係各位に対し、心より感謝の意を表します。

2012年5月

独立行政法人国際協力機構  
ベトナム事務所 築野 元則







## 目次

### 序文/地図/目次

	頁
第1章 中間評価調査の概要	1
1-1 中間評価調査団派遣の経緯と目的	1
1-2 評価者（調査団）の構成	1
1-3 評価調査日程	2
1-4 主要合意事項	2
1-5 団長所感	3
第2章 中間レビューの目的と方法	8
2-1 目的	8
2-2 方法	8
2-3 調査項目	9
第3章 進捗と実績	10
3-1 投入	10
3-2 活動	12
3-3 成果	12
3-4 プロジェクト目標	13
3-5 上位目標	14
3-6 実施プロセス	14
第4章 評価5項目に基づくレビュー	15
4-1 妥当性	15
4-2 有効性	15
4-3 効率性	16
4-4 インパクト	16
4-5 自立発展性	16
4-6 結論	17
第5章 提言	18

### [付属資料]

1. 評価結果要約表
2. 会議議事録 (M/M)





## 第1章 中間評価調査の概要

### 1-1 中間評価調査団派遣の経緯と目的

ベトナム(以下「ベ」国)では、近年の急激な経済成長に伴い、車両の増加、道路インフラの整備が進む一方で、道路利用者の危険な交通行動、行政による道路交通安全対策の遅れ等により交通事故が増加し2010年には交通事故死者数は1万4000人を超え、大きな社会問題となっている。

ベトナム公安省と各地方の公安部は、道路交通に関しては、道路交通法違反者の取り締まりや交通指導、信号機操作等の交通監理、交通事故処理、事故データの収集分析等を担当業務として行っており、同省傘下の人民警察学院(People's Police Academy: 以下PPA)は、これら人材(交通警察官)の養成・輩出を行うとともに、幹部職員の再訓練を行う組織として位置づけられている。また、PPAでは、地方における警察官の教育・養成機関(人民警察大学、人民警察高等学校)における研修内容については、近年の急激な交通状況の変化に十分に対応したものではないため、その改善が喫緊の課題と認識され始めている。加えて、PPAは、「ベ」国全国から収集される交通事故データを分析し、効果的な政策提言を行う機能を強化するため、公安省からの支援も得つつ、「交通安全研究センター」を立ち上げる準備を開始している。

このような背景の下、JICAは、これまでハノイ市人民委員会をカウンターパート(C/P)機関として「ハノイ交通安全人材育成プロジェクト」(2006年7月～2010年3月)を実施し、PPAと連携しながらハノイ市の現職交通警察官向けの再訓練研修を立ち上げるとともに、交通指導取り締まりや、事故データの収集・分析等の技術支援を行った。「ベ」国側では、これらハノイ市における様々な実績/経験を全国レベルに波及させ、交通安全対策の一層の効果を創出させるために後継プロジェクトを要請した。これを受けてJICAは、PPAをC/Pとして「交通警察官研修強化プロジェクト」(以下「本プロジェクト」)を2010年6月より2013年6月までの3年間の予定で実施中である。現在、5名の長期専門家(チーフアドバイザー、交通安全教育、交通違反取り締まり等を派遣中である。

プロジェクト開始より2年間が経過した今般、これまでのプロジェクト活動の達成度を把握するとともに、評価5項目(妥当性、有効性、効率性、インパクト、自立発展性)の観点から総合的に評価を行うことにより、今後のプロジェクト活動のために必要な方策を提言することを目的とし、中間評価を実施したものである。

### 1-2 評価者(調査団)の構成

担当業務	氏名	所属・役職	派遣期間(本邦発着)
総括	勝田 穂積	国際協力機構 国際協力専門員	4月19日～4月25日
評価分析	昌谷 泉	合資会社 プラスタ	4月16日～4月25日
協力企画	久保 良友	国際協力機構ベトナム事務所員	(4月19日～4月25日)

### 1-3 評価調査日程

日 順	日	曜日		活動内容	備考
1	4月16日	月	PM	10:10 ハノイ着 (VN955)	
2	17日	火	AM	9:00 対処方針会議	
			PM	2:00 専門家チームとの協議 (高木チーフ、斎藤副チーフ、ベトナム人専門家) 4:00 施設機材等の視察	
3	18日	水	AM	9:00 カウンターパート・ヒアリング 教材作成、教授法 WG	
			PM	2:00 カウンターパート・ヒアリング マネージメント G (Yem 学長、Binh 副学長、Hoa 学部長)	
4	19日	木	AM	8:30 カウンターパート・ヒアリング 交通安全研究センターWG 10:00 現役警察官研修 WG	
			PM	10:10 勝田団長ハノイ着 (VN955) 団内打ち合わせ	
5	20日	金	AM	9:00 調査団プロジェクトチーム会議	
			PM	2:00 Yem 学長表敬、協議 (勝田団長ほか)	
6	21日	土	AM	ヒアリン等調査結果のとりまとめ	
			PM	同上	
7	22日	日	AM	同上	
			PM	同上	
8	23日	月	AM	JCC 会議資料作成	
			PM	14:00 JCC 会議 16:00 ミニッツ署名	
9	24日	火	AM	9:30 カウンターパートとの意見交換会	
			PM	JICA 報告 帰国 (VN954 23:50)	
10	25日	水		成田着	

### 1-4 主要合意事項

ミニッツに書きこまれた内容は以下の通り。

#### (1) 中間レビュー報告書

中間レビュー報告書が JCC に提出され JCC で承認された

(2) プロジェクトの全体進捗と PDM の修正

プロジェクトは全体としてスムーズにまた効果的に実施されており、PPA、C/P 並びに JICA 専門家の努力を評価。なお、PDM の上位目標について、3 文章に分かれていたものを一つの文章に統合した。

(3) 新教材の認定と教授法の改善

調査団から、教材を認定し平生の授業にも活用して持続性を確かなものにするよう要請した。また、調査団は授業法の改善が教官の能力向上に不可欠であると述べ、JICA 調査団並びに PPA とも教授法の改善をさらに加速して取り組むことで合意した。

(4) 交通事故研究センターの人材育成

PPA は、既に交通事故研究センターが 2011 年 8 月に PPA 交通警察学部の組織として設立され、人員配置がなされていると説明した。また JICA の供与機材もセンターに備えられた。JICA 調査団並びに PPA はセンターが独立した組織として早期に設立されるよう PPA が MOPS に申請していることを確認するとともに、センターの強化並びに利用が全国交通安全に貢献することも併せて確認した。PPA は人材育成の重要性を認識し更なる努力を約束した。

(5) 現役警察官件数プログラムの改善

現役警察官に対する研修プログラムに関しては世銀プロジェクトや JICA プロジェクトとの調整活動の重要性を調査団が説明したのに対し、JCC は関係者間の調整を強化しながら同研修を支援することを確認した。

## 1-5 団長所感

(1) PPA 幹部の積極性のもと、概ね順調に進展

ベトナム、特に首都圏やホーチミン等大都市圏の道路交通問題は、経済の進展もありますますます深刻度を強めている。ベトナム政府も、その辺りを十分認識し対応を図ってきているが追い付いていないのが実情だ。とりわけ交通安全面で主導的な役割を担う交通警察は、現実の複雑化する交通実態に必ずしも即応せず的確な対応が図れていない。そこで、より進んだ交通安全関連技術を取り入れて交通警察官を育成するため、警察官を育成する教育・研修機関として統括する位置づけにある人民警察学院 (PPA) に対し本プロジェクトが開始された。

プロジェクトが開始されて1年と9カ月が過ぎたが、この間に、既存の教科書に関する詳細な見直し作業やそれによって決められた新教材 (新しい教科書案など) の作成や教育方法の改善に向けた取り組み、また交通事故研究センターの設立や活動の開始など、プロジェクトは全体として概ね順調に進んできている。特に、学長を中心とする PPA 幹部の本プロジェクトを前進させようという意気込みが明確で、彼らは MOPS への働きかけも含め広い範囲で本プロジェクトの推進を図っている。その意味からも、マネージメントの強い力添えもあって、本プロジェクトが確実に前進している点は強調できる。

その点をまず確認しつつ、以下では今回の中間評価で焦点となったいくつかのポイントについて記述する。

## (2) 教材内容と授業方法の改善へ向けた更なる取り組みの必要性

### 1) 現状認識 — 新教材があまり活用されていない現実

本技術協力プロジェクトは、PPAという教育の場における教官の教育能力の向上を目指したものであり、肝要な点は教科書をはじめとする教材とこれを活用した授業の在り方に関しどのように既存のものに対しレベルアップを図るかにある。その根底にある問題意識は、ベトナムが現在直面している交通問題に対しPPAでの教育におけるとらえ方が交通の実情を踏まえた的確なものではなくかなり旧態依然としたものにとどまっている点にあった。そこで、まず本プロジェクトではこれまで使用している教科書をどのように修正・追加していくかについて最初の6か月を使って詳細に検討し、その実施計画をJICA専門家とカウンターパート（C/P）との共同作業として作成している。この過程で行われた教科書の問題点洗い出しや、それを踏まえた具体的な教科書の修正方針や必要な教材の選定などに関する検討は、かなりしっかりやられてきたと考える。

ただし、この作業の過程で、詳細計画策定調査時にはPPAの権限で可能とされていた教科書の修正がそう簡単ではないことが判明した。すなわち、教科書の内容は、上位官庁である公安省（MOPS）が定めるカリキュラムに沿ったものである必要があり、また対象とした科目には最近作成された教科書もあり、すぐには内容の修正は難しいとの判断がなされたからである。（この判断は、必ずしも正しいものではない。PPAの説明も少しずつ変わってきたように思える）そこでとられた方法が、内容的に修正や追加が必要な項目については関連資料教材として作成し、一定のパイロット授業を行ってMOPSに改定提案をするというものであった。つまり、教科書の改善の必要性を具体的に割り出したものの、教科書とは別ものとして修正や追加部分を含めた教材を作成することとしたのである。

この教科書とは別の教材はJICA専門家とC/Pの共同作業の結果として作成されたが、PPA側の説明では、4科目のうち3科目についてはこれと並行して教科書を改訂し、その中には本プロジェクトで検討した修正や追加事項のうち基本的なものについては記述を加えるなど必要な措置を行った、とのことである（ここでの措置がどこまで、当初の改善方針と合致しているかについてはきちんと把握されていない）。

ところが、このことが、必ずしも新しく作成された教材が、平生の授業で活用されていることを意味しない。C/Pの中には、かなり活用している人もいるようであるが、総じてその活用度が低いのが現状である。

### 2) 新教材の活用促進を図る

作成された新教材の活用度が低い原因は、さまざまな理由が言われている。一つの理由は現在の授業時間だけでは新規の内容を教える時間が足りない、というものである。また、他の理由としては、正式に認められていない教材であり、それを平生の授業で使っていくのは無理があるというような意見もある。ただし、既にかなり活用している教師もいるとの意見も聞かれており、明確な理由が分かりにくい。

いずれにせよ、作成された教材は、既に複雑化しているベトナムの交通問題をとらえるのに必要な考え方について、既存の教科書にはない進んだ内容を提供するものであり、ま

た教育の方法上も従来の教科書に比べ理解しやすい工夫（例えば図表の挿入など）もされており、授業の手法上もより優れたものである。大学教育ともなれば、教科書以外に他の教材も活用していいはずだし、それが授業の充実につながる。残念ながら、新教材に対するシラバスはまだ一部が出来ているにすぎないので、シラバスの作成とともに、これまでに作成してきた教材を出来るだけ活用して現実の授業内容を充実させることが現時点では最も求められるところである。

また、教官にとっては、これらの教材の授業への活用を図るためには、それらの内容について十分な理解がなければならぬため、これまでの教材作成時の係わりに加えシラバスの作成を含め更なる努力が求められ、そのことを通じた能力アップも確実に図れるものと考えられる。こういった過程を通じて、新教材や授業方法に対する教官のオーナーシップを高めることにも役立つことが期待される。

PPAでは、これらの新教材の活用には、まずこれらを正式の教材として承認した上で授業に使うことを奨励する方法を模索しており、PPA内の審査会にできるだけ早くかける手続きを進めるとした。なお、新教材の活用促進の具体的な手法として、現在の学部の授業計画の中に、新教材の活用をある程度義務付けるといった方法が考えられる。つまり、年間を通じた時間割のそれぞれのコマに新教材の中味をそれぞれ割り当て、それを使った授業（演習や討論などを含む）を実施するように仕向けることも一つの考えであろう。ともかく新教材の活用促進を図ることが重要である。

### 3) 正式化へ向けた努力を

今次の中間評価においては、新教材の活用促進のための認可がかなり話題となった。この点について、PPA学長のイェム氏も、かなり重大な点と認識し一刻も早く承認を得たいと言っており、かなり強力に承認に向けて動き出すものと見込まれる。この点は、PPAのやる気を示すものとして、大いに評価できる。

では、新教材は、今のままで正式教材として認められるだけの内容となっているのか。その点については懸念が残っている。現在の新教材は、まだ正式教材として体裁が整っていない、ようなのである。確かに、本プロジェクトでは、最初の6か月を使って、教科書の修正や追加項目を細かく検討抽出した。この結果抽出された項目の多くは、現在の教科書を改善するのに不可欠なものなのではないかと思うが、既に作成されている教材は、JICA専門家の説明でも全体としての整合性のほか表現ぶりなどで修正を要するものもあり得る。それらはきちんと対応していく必要があるのだ。そのためには、この新教材をできるだけ実際の授業に使ってみて、その中で必要な修正を行うことが大事だ。教材の作成自身はPPAの責任である。PPAが責任を持って内容のしっかりしたものとしていく努力が求められる。

### (3) C/Pの更なる積極的な参加を求める

上述した、教科書やその他教材ならびに教育方法の改善のところでも触れているが、プロジェクトの今後の活動において、再度強調すべきはC/Pの積極的な参加、むしろC/Pの主導である。

残念ながら、JICA専門家からは、これまでの活動においてC/Pの参加度が低いと言った苦言が聞かれた。本プロジェクトの目的からすれば、これまで作成されてきた教材などもそれが出来ているかではなくC/Pの直接的な係わり度合いが重要なのである。作成に当たっての係わり度合いが深ければ、C/Pは教材の新たな内容に関する理解度を深めることとなるからである。現在まで、新教材を活用した授業はかなり限定的であった。だから、作成時に受け身であり理解が十分に進まなかったとしてもあまり問題として見えてこなかったかもしれない。

しかし、今後は、既に作成された教材を活用した授業を自らが行っていくことが求められる。教える段となって、自らが必ずしも主体的にかかわらなかつた教材を果たして、どこまで学生に対し教えられるだろうか。教えるためには教えられる側の何倍もの知識が要求されると一般に言われている。従って、シラバスの作成も含め、再度新教材の内容を勉強することが必要になるだろう。今後の活動においてはC/Pの主導は必然となるとは想像するが、決して楽な過程ではないので、JICA専門家としてもその点を十分わきまえ、うまく支援しながらC/Pの自主性を引き出すように仕向けていただきたい。

#### (4) 現役警察官を対象とした研修プログラムの進展をどう図るか

これは、現在のC/Pが残念ながら実務経験に乏しいながらそれを実際に経験する場がないことを背景に、またJICAをはじめとしてドナーが行っている事業との連携を図るという観点も含め、C/Pが現場の交通警察官に新しい実務に対する研修を実施することで、相互の交通現状に関する意見交換の場を形成するとともに教官の能力向上を図りつつ現場の交通警察官の能力アップも目指すものである。

現在のC/Pは、人民警察学院を卒業するとそのままPPAに残り教官となったものがほとんどで、現場での実務を経験する機会がほとんどない。そしてこのことが、JICA専門家がC/Pに新規の項目を教える際の大きな障害となっている。これまでの教材作成やパイロット授業の実施の中でC/Pは一定の能力を高めてきているとはいえ、現場で苦勞している現役警察官に研修を行うことは、C/Pにとって実務面での情報を得て能力を高めるうえでかなり重要な機会ととらえ、フルに活用することが重要である。

ただし、こういった研修を制度化するためには必要な予算や上位官庁からの正式な指示を得る必要があるなど、それほど簡単ではない。今回はJICAによる円借款事業との連携が図れたが、こういった連携がこれからも保証できるものでもなく、すぐに制度化が難しい面もある。研修機関としてのPPAの職務として重要な業務という認識の下、何とかMOPSの承認を得て今後の展開につなげていく必要がある。

#### (5) 進展がみられる交通安全研究センター

交通安全研究センターのPDM上の第1番目の活動は同センターの法的な枠組みについて承認を得ることであった。これは、MOPSも認める正式な機関として認可してもらうこと（これによって独自予算も確保できるとのこと）であったが、これまでのところMOPSの中に一部同様な内容を所管する部署もあり設立に関する正式な認可が得られなかった。現時点ではやむを得ずPPA交通警察学部の業務の一部を担う部署として活動しているが、徐々にMOPS

の理解が進んできているようである。現在MOPSによる正式認可の最終段階にあると聞いており、できるだけ早期の認可を期待したい。

このような厳しい環境ではあるが、現時点で予算（プロジェクトのカウンターパート資金）や人材の配置など必要な措置が取られており、研究活動を実施することのできる基盤は一応あるといえる。従って、問題はこの機関における活動が開始され、少しでも意味ある成果を出し始めているかが重要である。この点については、既に研究発表会などの外部へ向けた成果の説明などが行われてきており、それらの活動が本機関の活動として徐々に定着してきていると言えるだろう。

ただし、研究活動が所要の成果を生み出すには、研究員の能力向上とともに研究テーマが一定の研究体系の中で適切に選定され必要な予算が確保されているといった枠組みが出来ることが必要だろう。まだ、研究体系や研究員の能力などがプリミティブな段階でしかなく、また予算の確保も確立されたものとなっていない。さらに交通安全の分析には不可欠な事故データの整備がまだかなり不完全であり、そういった環境の中での活動の開始でしかない。こういった面での改善に引き続き取り組んでいく必要がある。

## 第2章 中間レビューの目的と方法

### 2-1 目的

「中間レビュー」は、実施期間が比較的長期のプロジェクトについて、開始から一定期間がたった時点で、その妥当性を再検証するとともに、有効性・効率性の観点から目標達成見込み、プロジェクトの促進・阻害要因とその動向等を分析する。この評価結果は、プロジェクトの計画の見直し等に活用される。

本プロジェクトは2010年6月に開始されてから2年近くが経過しており、JICA調査団によって中間レビューが実施された。

### 2-2 方法

文献調査に加え、ベトナム側カウンターパート、日本側専門家、プロジェクト関係者に対して質問票調査及びインタビュー調査を実施して必要データ・情報を収集した。また、プロジェクトサイトを訪問、視察した。さらに関係者と協議を重ねたうえで調査の結果を分析し、中間レビュー調査報告書としてまとめた。

### 2-3 調査項目

調査を実施した項目は、1) 進捗と実績、2) 実施プロセス、3) 評価5項目に基づくレビュー項目に分類される。調査項目の詳細は評価グリッド(付属資料参照)の通りである。

#### (1) 進捗と実績

中間レビュー時点におけるプロジェクトの実績は、レビュー時点のPDMに記載された投入と活動実施の状況、及び成果、プロジェクト目標、上位目標の達成指標によって計測した。

#### (2) 実施プロセス

プロジェクトの実施プロセスは、プロジェクトが適切に管理されているかを検証し、プロジェクト実施の促進要因と阻害要因を抽出するため、技術移転の状況、関係者間のコミュニケーション、モニタリング状況等、様々な観点から分析した。

#### (3) 評価5項目によるレビュー

開発プロジェクトを評価する際に国際的に使用される評価5項目の観点から、収集したデータを分析し、総合的に判断した。評価5項目の内容は以下のとおりである。

#### 1) 妥当性 (relevance)

プロジェクトの目標は、受益者のニーズと合致しているか、問題や課題の解決策としてプロジェクトのアプローチは適切か、相手国の政策や日本の援助政策との整合性はあるか等の正当性や必要性を確認する。

#### 2) 有効性 (effectiveness)

プロジェクトの実施によって、プロジェクトの目標が達成され、受益者や対象社会に便益がもたらされているか等を確認する。

#### 3) 効率性 (efficiency)



プロジェクトの投入と成果の関係に着目し、投入した資源が効果的に活用されているか等を確認する。

4) インパクト (impact)

プロジェクトの実施によってもたらされる、長期的な効果、波及効果、上位目標の達成度合い等を確認する。

5) 自立発展性 (sustainability)

プロジェクトで発現した効果が、協力終了後においても持続し発展しているかを確認する。

### 第3章 進捗と実績

#### 3-1 投入

2010年6月のプロジェクト開始から2012年3月にいたるまで、日本側およびベトナム側投入は、一部の機材供与を除いて概ね予定通り実施された。

##### 3-1-1 日本側

###### (1) 専門家派遣

プロジェクト開始から9人の日本人専門家が派遣されている（下表）。稼働期間は2012年3月末時点で合計44.0人月である。

日本側専門家リスト

氏名／分野	第1年次				第2年次			合計 (人/月)
	2010		2011		2012			
	7-9	10-12	1-3	4-6	7-9	10-12	1-3	
高木通雅／チーフアドバイザー	1.50	1.67	1.30	0.53	0.33	1.47	2.10	8.90
齋藤 威／副チーフアドバイザー、交通違反取締り、交通安全研究センター	1.50	1.00		1.00	2.13	1.33	0.80	7.76
トゥエンチャイ・フクダ／道路交通法、他事業との連携	1.00	1.00	0.53	0.47	0.50	1.00		4.50
齋藤良子／安全教育	0.70	1.23	0.67					2.60
大野優治／交通規制と交通管理、現役警察官研修	1.00	1.00	0.37	0.13	1.00	1.13	1.43	6.07
菊池厚躬／交通事故データ収集分析	1.00	0.50		0.50				2.00
川村晃徳／教授法、現役警察官研修	1.00	1.00	0.37	0.03	1.00	1.10	1.57	6.07
関 陽水／教材作成、他事業との連携	0.60	1.53	0.87	0.50		1.00	1.10	5.60
岩本あき子／プロジェクトモニタリング	0.50							0.50
合計(人/月)	8.80	8.93	4.11	3.16	4.97	7.03	7.00	44.00

注：2012年3月末現在

###### (2) ベトナム人プロジェクトスタッフ

プロジェクトスタッフとして、数人のベトナム人専門家、コーディネーター、通訳、秘書が雇用されている。その稼働期間は2012年3月末時点で合計195.9人月である。

###### (3) カウンターパート研修

2010年9月に第一次研修として10名、2012年2月から3月にかけて第二次研修として7名のカウンターパート人員（C/P）が本邦研修に参加した。また、2011年8月に5名のC/Pが第三国研修としてタイ国バンコクのセミナーに参加した。

###### (4) 機材供与

下表の資機材がプロジェクト活動のために提供された。資機材はすべて適正に使用されている。ただし、パトカー2台と白バイ10台の提供が、ベトナム側受け入れ手続きの遅延により、予定より一年以上遅れている。

供与機材リスト

No	名称	数量	No	名称	数量
1	Sound Recorder	4	16	Wireless Access point	1
2	Video Recorder	5	17	Internal - HDD	2
3	Photo-Camera	5	18	Desk and chairs for computer users	6
4	Multi media Projector	1	19	Working desks	1
5	Lowering set for the projector	1	20	Working chair	12
6	Electric Screen	1	21	Document cabinet	6
7	Network SWITCH	1	22	Oval shaped meeting table 800mm	1
8	Network SWITCH	1	23	Meeting chair	20
9	Desktop computers	6	24	Foldable chair	20
10	Computer Display	6	25	Flipchart with Silicon tripod	1
11	Laser printer (black-white)	1	26	Air conditioner	4
12	Color Jet Printer	1	27	Laptop	2
13	Scanner	1	28	Photocopy machine	2
14	UPS	1			
15	Modem router	1			

注：2012年3月末現在

3-1-2 ベトナム側

(1) カウンターパートスタッフの配置

これまで合計26名の人民警察学院（PPA）職員が、プロジェクトのベトナム側C/Pとして配置されている（下表）。第1年次には5つのワーキンググループに15名のC/Pが配置され、第2年次には編制替えされた4つのワーキンググループに23名のC/Pが配置された。第1年次から2年次にかけて、人事異動のため3名がプロジェクトから離れている。

カウンターパート職員リスト

氏名	PPA 役職	備考
Dr. Nguyen Xuan Yem*	学院長	プロジェクトディレクター
Mr. Nguyen Duc Binh*	副学院長	プロジェクトマネージャー
Mr. Phạm Trung Hòa*	交通警察学部学部長	
Mr. Vũ Xuân Trường*	交通警察学部副学部長	
Mr. Nguyễn Văn Mận	交通警察学部	第1年次のみ参加
Mr. Đặng Đức Minh*	交通警察学部	
Mr. Phạm Hồng Sơn*	交通警察学部	
Mr. Hoàng Trọng Khánh*	交通警察学部	
Mr. Phạm Trung Hòa	交通警察学部	
Mr. Trương Thành Trung*	交通警察学部	
Mr. Nguyễn Ngọc Giang*	交通警察学部	
Mr. Hoàng Đình Ban*	交通警察学部副学部長	
Mr. Nguyễn Anh Dũng	交通警察学部	第1年次のみ参加
Mr. Đặng Xuân Ôn	交通警察学部	
Mr. Chu Minh Hoàng	交通警察学部	第1年次のみ参加
Mrs. Trương Diệu Loan*	交通警察学部	
Mrs. Nguyễn Khánh Ly*	交通警察学部	
Mr. Ngô Văn Tiến	交通警察学部	第2年次より参加
Mr. Vũ Văn Luyến	交通警察学部	第2年次より参加
Mrs. Nguyễn Thị Thanh Tâm*	交通警察学部	第2年次より参加
Mrs. Nguyễn Thị Thu Hoài*	交通警察学部	第2年次より参加
Mr. Nguyễn Thành Trung*	交通警察学部副学部長	2012年3月より参加

Mr. Nguyễn Nhu Linh*	交通警察学部	2012年3月より参加
Mr. Le Huy Tri*	交通警察学部	2012年3月より参加
Mr. Trần Minh	運転訓練担当	第2年次より参加
Mr. Nguyễn Khắc Thành	運転訓練担当	第2年次より参加

注：\*は今回面談した C/P

## (2) 事務所施設

プロジェクトのために事務所スペースおよび施設が提供されている。

### 3-2 活動

PDM に記載された活動は、POに従って計画に比べ大幅な遅延なく実施されている。

### 3-3 成果

PDMに記載された成果のこれまでの進捗、達成状況は以下に示す通りである。

成果1: 交通警察学部教育において「道路交通法と安全教育」、「交通規則・管理」、「交通違反取締り」、「交通事故データの収集」に関わる教育内容が充実する。

#### 【指標】

1-1新教材が開発される。

#### (指標1-1)

これまでに「道路交通法」、「安全教育」、「交通規則・管理」、「交通違反取締り」、「交通事故データの収集」の5教科の教科書、「道路交通法と安全教育」、「交通規則・管理」、「交通違反取締り」、「交通事故データの収集」の4教科の問題集、教授法教材、現役警察官研修教材が作成されている。さらに、6種類のビデオクリップ等、作成中の教材もある。このように成果1は順調に進展しているが、教材の授業での活用により、さらなる質の改善が求められる。

成果2: 学生を主体とした新たな教授法が導入される。

#### 【指標】

2-1新しいシラバスが作成される。

2-2新しい教授法と教材を使用したパイロット授業が実施される。

#### (指標 2-1)

パイロット授業のために「道路交通法と安全教育」、「交通規則・管理」、「交通違反取締り」、「交通事故データの収集」4教科のシラバスが作成された。ただしその内容は十分に詳細でなく、改善が必要である。

#### (指標2-2)

新しい教授法と教材を使用したパイロット授業は上の4教科で8回実施された。

このように成果2は進捗しているが、シラバス作成及びパイロット授業の実施は、質量ともに満足できる水準に達しているとまでは言えない。

成果3: 交通安全研究センターが設立され、研究開発業務が開始される。

【指標】

3-1交通安全研究センターの年次報告書が、PPAから出版される。

(指標3-1)

交通安全研究センター (TSRC) は2010年9月に活動を開始し、4名の職員が配置された。2011年8月にはPPAの正式承認を受けて7名の職員が配属された。ただし、TSRCはPPAの一機関として未だ公安省からの正式認可を受けていないため、予算の計上は出来ない。現在、TSRCの活動予算はプロジェクトのカウンターパートファンドから支出されている。これまでTSRCは2011年6月のセミナーで2件の研究報告を、2011年12月のセミナーで4件の研究報告をしている。PPA副院長によれば、その研究成果のうち一部は、実際の警官配置計画に既に応用されている。以上のように、TSRCは公安省の正式認可を未だ受けていないものの、成果3は現時点としては十分な実績をあげている。

成果4: 現役警察官を対象とした研修プログラムの研修内容が充実する。

【指標】

4-1現役交通警察官のパイロット研修が実施される。

(指標4-1)

PPAの研修機能強化のため、現役警察官を対象とした研修プログラムが、JICA円借款プロジェクト「ベトナム北部国道交通安全強化事業」との連携で計画されている。現在本プロジェクトが研修のパイロットプログラムを策定中であり、実際の研修は近く実施される予定である。成果4は順調に進展していると言える。

以上のように、4つの成果は一定の進展があり、全体的に中間時点としてはほぼ適切な達成度を示している。

### 3-4 プロジェクト目標

【プロジェクト目標】

1. PPAにおける交通警察学部の教育内容が充実する。
2. PPA交通警察学部指導教官の教授能力が向上する。

【指標】

1. シラバス、教材がPPAに承認される。
2. 講義・実習においてプロジェクトの成果物が使われ始める。
3. 政策提言を含む研究結果が、公安省等に報告される。

(指標1 および 2)

PPAのパイロット授業はこれまで「道路交通法と安全教育」、「交通規則・管理」、「交通違反取締り」、「交通事故データの収集」の4教科で8回実施されており、シラバスや教材はこれらのパイロット授業で既に使用されているが、正規の授業においてはあまり使用されていない。

### (指標3)

TSRCは公安省からも出席者を招いた研究成果はセミナーで発表されている。このように一定の成果を出しているが、教材を教科書として正規の授業において広く使用するためには公安省のカリキュタムの沿ったPPA技術審査会の承認が必要であり、そのためには時間を要すると思われる。また、TSRCの研究も水準を向上させる努力が必要である。以上から、プロジェクトは目標達成に向かって一定の進捗を見せていると判断できる。

### 3-5 上位目標

#### 【上位目標】

1. PPAにおける研修に参加した交通警察官の能力が向上する。
2. 人民警察大学／専門学校における交通警察指導教官の能力が向上する。
3. PPAによる交通事故対策への提言がベトナム政府の政策立案に貢献する。

#### 【指標】

1. 前線の交通警察官が、PPAの新研修内容を用いた新しい活動を開始する。
- 2-1 人民警察大学／専門学校が、PPAが作成した教材を使用し始める。
- 2-2 PPAで研修を受けた人民警察大学／専門学校の教官が、学生を教え始める。
3. PPAによる提言が、交通安全対策に反映される。

上位目標の内容はプロジェクト終了後に実施すると思われる活動に依存する部分が多く、指標の値を現時点で推定することは困難であるため、上位目標の達成見込みを今回のレビューで推測することは困難である。

### 3-6 実施プロセス

プロジェクトの実施プロセスはこれまでのところ総じて適切である。以下にレビュー調査団が気づいた主要なポイントを示す。

- (1) JICAプロジェクトチーム（日本人専門家とベトナム人スタッフ）とベトナム側C/Pとのコミュニケーションと関係は概ね良好である。ただしプロジェクトの初期段階では、両国間の交通安全状況や一般的な文化の違いにより、互いを理解するまでに時間を要した。プロジェクト会議は毎週定期的実施されている。
- (2) しかしながら、プロジェクト活動の多くは日本人専門家の主導で実施されており、ベトナム側のオーナーシップの確立は今のところ十分ではない。
- (3) プロジェクトの進捗報告書は計画に従って提出されている。
- (4) 合同調整委員会（JCC）はこれまでに3回開催され、適切に機能している。一方、コンサルタティブグループの会合については、開催頻度は低いが、その主要メンバーは適宜プロジェクトに対しアドバイスをしている。

## 第4章 評価5項目に基づくレビュー

評価5項目を基準としたプロジェクトのレビューと結論は以下に示す通りである。

### 4-1 妥当性

以下の理由によりプロジェクトの妥当性は非常に高い。

#### (1) ベトナム政府の政策との整合性

車両台数の急増に伴い交通事故が多発しているベトナムにとって、交通安全対策は喫緊の課題であり、政府は交通安全に関する法令、通達を発令しこの問題に取り組んでいる。交通警察官の能力向上を目指す本プロジェクトはベトナム政府の政策と完全に合致するものである。

#### (2) 受益者ニーズとの整合性

直接の受益者はC/PであるPPAの交通警察学部スタッフである。彼らは現下の交通事情に対応した新しい教材、新しい教授法を開発、導入し、自身のキャパシティ向上をする必要に迫られている。したがって、プロジェクトは受益者ニーズに整合する。

#### (3) 日本政府の対ベトナム援助政策との整合性

2009年に策定された日本の対ベトナムODAプログラムにおいて、「経済成長促進・国際競争力強化」は4つの重点分野のうち一つである。交通安全に関する支援はその中に述べられている「都市開発・運輸交通・通信ネットワーク整備」に該当する。

#### (4) 日本の協力の優位性

日本には交通安全における長年の経験と実績があり、交通安全対策には比較優位がある。とりわけ警察官を育成する様々な研修機関を有していることから、本プロジェクトの実施には優位性を持つ。

### 4-2 有効性

プロジェクトの有効性は、現時点で一定水準に達していると判断される。先に3-4で述べたように、プロジェクトは目標の達成に向けて堅実な進捗を見せている。

目標達成に向け特に貢献している要因としては、1) 4つの成果がこれまでのところほぼ順調な結果を出していること、2) JICAプロジェクトチーム（日本人専門家及びベトナム人スタッフ）とベトナム側C/Pとのコミュニケーションが円滑で関係が良好であること、3) PPAのトップマネジメントがプロジェクトに関し積極的、協力的であること等が挙げられる。

一方でプロジェクト目標の達成を阻害する要因としては、1) 一部機材の納入の遅延、2) 教材の正式認可の遅れと公安省によるTSRC承認の遅れがプロジェクトの有効性発現を遅らせている。特に、新教材と新教授法のさらなる改善と教官の教授技法を向上させるには、開発された新教材が技術審査委員会による正式認可を得て、実際の授業でできるだけ多くの機会に使用される必要がある。現状では新教材、新教授法はパイロット授業でのみ使用され、正規の授業ではあまり使用されていない。

#### 4-3 効率性

投入、成果の状態から判断して、プロジェクトの効率性は高いと思われる。

##### (1) 投入の適切性

これまで9名の日本人専門家が派遣されており、種々の活動を効率的に実施している。C/Pからは、責任感の高さや熱心な勤務態度が高く評価されている。日本人専門家のほかにベトナム人の専門家とその他のスタッフが数名雇用され、活動の実施にあたって重要な役割を果たしている。

ベトナム側C/Pの配置は適正であり、その能力は概して高い。3-1-2に記したとおりこれまでに異動のためプロジェクトを離れたC/Pはごく僅かである。しかしながら、教材作成等多くのプロジェクト活動は日本人専門家側のイニシアティブで実施されてきたのは事実である。プロジェクトの効率性を高めるにはC/Pの積極的な参加が不可欠であるが、現状ではそれが必ずしも十分ではない。理由の一つはほとんどのC/Pは授業や学生の指導などの日常業務を抱えており、プロジェクト活動に十分な時間を配分できないことである。ただし、ベトナム側がプロジェクト活動の重要性を考慮した結果、第2年次からはTSRCのスタッフ等数名のC/Pを授業から免除し、プロジェクト活動に専念できるようにしたため、C/Pの主体的な参加の程度は高まりつつある。

2010年と2012年の2回の本邦研修は参加者に有益であった。また、2011年8月の第三国研修でのタイ訪問においては、C/Pはセミナープレゼンテーションや交通事故研究センターの視察等により知識を得、経験を積むことが出来た。

日本側から供与された機材は、すべて適正に維持管理され十分に活用されている。ただし、3-1で述べたように、パトカー2台と白バイ10台の納入がベトナム側の手続きに時間を要したために大幅に遅れ、これらを使用する実習の開始が遅れている。

##### (2) 成果の達成度

先に3-3の指標で見たとおり、成果には一定の進展があり、中間時点としては適切な達成度を示している。

#### 4-4 インパクト

上位目標に関しては、3-5に記したとおり現時点で指標から上位目標の達成見込みを推定することは困難である。

それ以外のインパクトに関しては、計画時には十分に予期されていなかったプラスのインパクトがプロジェクトの実施によって既に生じていることが観測された。一つには、パイロット授業での学生の主体的な授業参加を求める新しい教授法の実施が、PPAの交通警察学部以外の他の学部からも大いに関心を集めたことから、将来は全学へ波及する可能性が出てきたことである。もう一つは、プロジェクトでのTSRCの研究活動（3-3参照）の成果によりPPAが信頼性を高め、公安省から新たなテーマによる研究を依頼されたことである。

#### 4-5 自立発展性

プロジェクトの自立発展性については、現状では正負双方の要因があり、不明確と判断される。



### (1) 政策面

交通安全は重要かつ緊急な課題であり、ベトナム政府の政策に大幅な変更があるとは考えられない。公安省は交通安全に資する能力開発への支援を継続するものと思われる。公安大臣は最近PPAで実施された式典の演説において、交通安全対策とそのための人材開発の重要性を強調している。

### (2) 組織制度、財務面

PPAは最重要な警察官研修機関として公安省より安定的な予算を受けており、PPA全体としての財務面での問題はないと思われる。また、PPAのトップマネジマンはプロジェクトの管理者としてプロジェクトを積極的に支持していることから、プロジェクト終了後も活動の持続性確保に努めるとと思われる。

プロジェクトで開発された新教材はパイロット授業で使われ、一部の正規授業においても使用されている。しかしながら教材が正規授業で十分に活用され、さらに他の警察官研修機関においても活用されプロジェクトが波及効果を保つためには、公安省のカリキュラムに従って教科書として正式認可を受ける必要がある。この点において正式認可を得ていない現時点では、自立発展性が十分に確保されていない。

TSRCは未だ正規のPPA機関として公安省からの承認を得ていないため、TSRCの活動のための予算を申請することが出来ない。現在はプロジェクト期間中のみ確保されるカウンターパートファンドによって研究活動を実施している。プロジェクト終了後も研究活動を継続するためには公安省による正式承認を受け予算を確保する必要がある。

現役交通警察官を対象としたパイロット研修は、PPAの能力開発を目指すプロジェクト活動の一つであるが、未だ実施前であるため、その効果は十分に明らかではない。しかしながら自立発展性を確保するためには、プロジェクト期間中に正規なPPAの活動として現役警察官研修を制度として確立する計画を描く必要がある。

### (3) 技術面

プロジェクト開始以来、ベトナム側C/Pはその能力を向上させている。新教材や新教授法の開発、交通安全に関する研究活動において専門能力が向上したことは、彼ら自身、日本人専門家共に認識している。しかしながら、現時点ではプロジェクト終了後に独力でプロジェクトの活動、効果を継続し拡大していただくだけの知識、能力を獲得できるかどうかは不透明である。

## 4-6 結論

レビュー調査団は、プロジェクトは成果、プロジェクト目標の達成に向け一定の実績を示しており、中間時点として適正な進捗を見せていると判断した。

評価5項目の観点からは、プロジェクトの「妥当性」は非常に高く、「効率性」も高い。「有効性」は一定のレベルに達していると判断した。「インパクト」に関しては、現時点でプラスのインパクトが観察された。プロジェクトの「自立発展性」の見込みについては正負の要因があり現時点で判断するのは困難である。

## 第5章 提言

レビュー調査団はプロジェクトをレビューした結果、以下4点を提言する。

### (1) 新教材、新教授法の積極的活用

今までのところ、プロジェクトで開発した教材、教授法をPPA交通警察学部教官が活用する機会は限定されている。教材、教授法をさらに改善し、またそれを通じてC/Pの能力開発をさらに進めるには、これまでに開発した教材、教授法をパイロット授業だけでなく正規の授業を始め、極力多くの機会において活用すべきである。

### (2) 交通安全研究センターの正式認可

交通安全研究センターがPPAの一機関として公安省に正式認可されることにより、研究活動の自立発展性が確保されることになる。なるべく早期に認可を得られるよう努力が求められる。

### (3) ベトナム側C/Pのプロジェクト活動への主体的参加

現在、プロジェクト活動は日本人専門家側の主導で実施されている傾向がある。ベトナム側C/Pがより主体的に活動に参加し、プロジェクトのオーナーシップを強固なものとすることが望まれる。

### (4) PDMの改訂

プロジェクトの論理的整合性をより明確にするため、PDMを一部改訂することが望ましい。具体的には、上位目標の記述において現行の3項目を1項目に統合して簡素化し、またプロジェクト目標の記述においてPPAスタッフの研究能力の向上についても含めることを提案する。（本項については既にJCCにおいてPDMの改訂が承認されている。改訂PDMは添付の通り）。

## 付属資料

1. 評価結果要約表
2. 会議議事録 (M/M)



評価調査結果要約表（案）

1. 案件の概要		
国名：ベトナム社会主義共和国	案件名：交通警察官研修強化プロジェクト中間レビュー調査	
分野：運輸交通	協力形態：技術協力プロジェクト	
所轄部署：ベトナム事務所	協力金額（評価時点）：約 億円	
協力期間 2010年6月～2013年6月（3年間）	相手国機関：公安省人民警察学院（PPA）	
	日本側協力機関：警察庁	
他の関連協力：有償資金協力プロジェクト「ベトナム北部国道交通安全強化事業」		
1-1 協力の背景と概要		
<p>ベトナム社会主義共和国（以下、ベトナム）では、近年の経済成長に伴い、車両の増加、道路インフラの整備が進む一方で、道路交通安全に必要な行政による対策の遅れなどにより、道路利用者の無秩序かつ危険な交通行動が目立ち、交通流が至る所で錯綜しているため、交通事故は増加し、2007年には交通事故死者数は13000人を超え、大きな社会問題となっている。</p> <p>このような状況下において、ベトナム公安省と各地方の公安部の交通警察を掌る部署では、道路交通法違反者の取り締まりや交通指導、信号機等による交通管理、交通事故処理、事故データの収集分析などの担当業務を懸命に推進している。</p> <p>同省傘下の人民警察学院（以下 PPA）は、交通警察官を含む警察官の養成を行うとともに、すでに警察の職場に就いている幹部職員の再訓練を行う組織として位置づけられ、また地方における警察官の教育・養成機関（人民警察大学、人民警察高等学校）を統括し、その講師を養成する役割も持っている組織である。しかし、現在、PPA やこうした関連教育機関（人民警察大学、人民警察高等学校）における教育内容は、近年の急激な交通状況の変化に十分に対応したものとは言い難く、その改善あるいは抜本的な改革が喫緊の課題となっているため、ベトナム国政府は我が国に対し、PPA をカウンターパートとする交通警察官の研修強化にかかる技術協力プロジェクトの支援を要請した。</p>		
1-2 協力内容		
(1) 上位目標		
1. PPA における研修に参加した交通警察官の能力が向上する。		
2. 人民警察大学／専門学校における交通警察指導教官の能力が向上する。		
3. PPA による交通事故対策への提言がベトナム政府の政策立案に貢献する。		
(2) プロジェクト目標		
1. PPA における交通警察学部の教育内容が充実する。		
2. PPA 交通警察学部指導教官の教授能力が向上する。		
(3) 成果		
成果1：交通警察学部教育において「道路交通法と安全教育」、「交通規則・管理」、「交通違反取締り」、「交通事故データの収集」に関わる教育内容が充実する。		
成果2：学生を主体とした新たな教授法が導入される。		
成果3：交通安全研究センターが設立され、研究開発業務が開始される。		
成果4：現役警察官を対象とした研修プログラムの研修内容が充実する。		
(4) 投入（評価時点）		
日本側：		
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 専門家派遣 9名</li> <li>● 機材</li> <li>● 日本研修、第三国研修</li> </ul>		
相手国側：		
<ul style="list-style-type: none"> <li>● カウンターパート配置 26名</li> <li>● 事務所施設</li> <li>● 活動に必要な経費</li> </ul>		
2. 評価調査団の概要		
調査者	勝田 穂積 総括／JICA 専門員 久保 良友 協力企画／JICA ベトナム事務所 昌谷 泉 評価分析／合資会社プラスタ	
調査期間	2012年4月16日～4月24日	評価種類：中間レビュー
3. 評価結果の概要		

### 3-1 実績の確認

#### (1) プロジェクト目標

PPA のパイロット授業はこれまで 4 科目で 8 回実施されており、シラバスや教材はこれらのパイロット授業で既に使用されているが（指標 1）、正規の授業においてはあまり使用されていない（指標 2）。交通安全研究センター（TSRC）は公安省からも出席者を招いた研究成果はセミナーで発表されている（指標 3）。このように一定の成果を出しているが、教材を教科書として正規の授業において広く使用するためには公安省の承認が必要であり、そのためには時間を要すると思われる。また、TSRC の研究も水準を向上する必要がある。以上から、プロジェクト活動は目標達成に向かって一定の進捗を見せていると判断できる。

##### 【指標】

1. シラバス、教材が PPA に承認される。
2. 講義・実習においてプロジェクトの成果物が使われ始める。
3. 政策提言を含む研究結果が、公安省等に報告される。

#### (2) 成果

##### 1) 成果 1

これまでに教科書、問題集、ビデオクリップ用シナリオ等の教材が作成されており、作成中の教材もある（指標 1-1）。このように成果 1 は順調に進展しているが、授業での活用によりさらなる改善が求められる。

##### 【指標】

- 1-1 新教材が開発される。

##### 2) 成果 2

パイロット授業のために 4 科目においてシラバスが作成された。ただしその内容は改善が必要であり、また、新教材がカバーするすべての授業のシラバスを作成する必要がある（指標 2-1）。パイロット授業は 4 科目で 8 回実施された（指標 2-2）。このように成果 2 は進捗しているが、シラバス作成及びパイロット授業の実施は、質量ともに満足できる水準に達しているとは言いえない。

##### 【指標】

- 2-1 新しいシラバスが作成される。
- 2-2 新しい教授法と教材を使用したパイロット授業が実施される。

##### 3) 成果 3

TSRC は 2010 年 9 月に活動を開始し、4 名の職員が配置された。2011 年 8 月には PPA の正式承認を受けて 7 名の職員が配属された。ただし、TSRC は PPA の一機関として未だ公安省からの正式認可を受けていないため、予算の計上出来ない。現在、TSRC の活動予算はプロジェクトのカウンターパートファンドで賄われている。これまで TSRC は 2011 年 6 月のセミナーで 2 件の研究報告を、2011 年 12 月のセミナーで 4 件の研究報告をしている（指標 3-1）。その研究成果のうち一部は、実際の警官配置に応用されている。以上のように、TSRC は公安省の正式認可を未だ受けていないものの、成果 3 は現時点としては十分な実績をあげている。

##### 【指標】

- 3-1 交通安全研究センターの年次報告書が、PPA から出版される。

##### 4) 成果 4

PPA の研修機能強化のため、現役警察官を対象とした研修プログラムが、JICA 円借款プロジェクト「ベトナム北部国道交通安全強化事業」との連携で実施されている。現在計画策定中であり、実際の研修は近く実施される予定である（指標 4-1）。成果 4 は順調に進展している。

##### 【指標】

- 4-1 現役交通警察官のパイロット研修が実施される。

### 3-2 評価結果の要約

#### (1) 妥当性

プロジェクトの妥当性は非常に高い。

- ・ ベトナムにとって交通安全対策は喫緊の課題であり、交通警察官の能力向上を目指す本プロジェクトはベトナムの政策と合致するものである。
- ・ 直接の裨益者である PPA の交通警察学部スタッフは、新教材、新教授法の開発導入を始めとするキャパシティ向上を必要としている。
- ・ 本プロジェクトは日本の対ベトナム援助政策に整合する。
- ・ 日本には交通安全対策における長年の経験と実績があり、様々な人材研修機関を有している。本プロジェクトの実施には比較優位を持つ。

#### (2) 有効性

プロジェクトの有効性は一定のレベル（Fair）にある。

- ・ プロジェクト目標の達成に向け、現時点として順当な進展が見られる（3-1（1））。

- ・ 4つの成果の進展、日本側とC/Pとの良好な関係、およびPPAトップマネジメントの積極的な姿勢が、プロジェクト目標達成への進展に貢献している。
- ・ 一方、作成された新教材が教科書として正式承認を未だ受けていないこと、同じくPPAに設立された交通安全研究センターが公安省の正式承認を得ていないことが、目標達成を阻む潜在要因となっている。

### (3) 効率性

プロジェクトの効率性は高い。

- ・ 日本人専門家はベトナム人プロジェクトスタッフと共に効率的に活動を実施している。
- ・ C/Pの人員配置は概ね適正である。2年時次からは交通安全研究センターの専任スタッフも増員された。ただし、各教員は従来業務（授業等）で多忙であり、中にはプロジェクトへの参加が十分でないC/Pもいる。
- ・ 本邦研修およびタイにおける第三国研修の内容は適正であった。
- ・ 日本側提供機材はすべて適正に使用されている。ただし、2011年初頭には予定されていたパトカー2台、白バイ10台の納入がベトナム側の手続きの遅れにより大幅に遅延している。
- ・ プロジェクトの成果は総じて順調に現れつつある（3-1(2)）。

### (4) インパクト

現時点において上位目標の達成見込みについては推定困難である。その他のインパクトとしては、プラスのインパクトが観察される。

- ・ プロジェクトで実施した新教材、新教授法のパイロット授業はPPA他学部からの注目を集めており、PPA全体に波及する可能性もある。
- ・ TSRCの活動実績により、PPAの研究機能は公安省より信頼を得、新規テーマでの研究の打診を受けている。

### (5) 自立発展性

正負両方の要因があり、自立発展性の有無を判断することは現時点で困難である。

#### 1) 政策面

- ・ 交通安全対策が重要かつ緊急な政策課題であることに変更はなく、公安省が交通安全に資する人材育成を支援することに確実である。最近の公安省大臣演説でも、交通安全対策の重要性が強調された。

#### 2) 組織制度面、財務面

- ・ PPAは公安省から安定的な予算を受け取っており、組織としてのPPAの財務面での不安はない。
- ・ PPAトップマネジメント（学長、副学長）はプロジェクトを理解し、積極的に評価している。
- ・ プロジェクトで作成されたシラバスや教材の中には未だPPAの正式承認を受けていないため、パイロット授業以外では十分活用されていない。これら教材が他の警察官教育機関で使用されるためにも正式な承認は必要である。
- ・ TSRCは現在のところPPAが認める交通警察学部内の一組織であり、その活動予算はプロジェクトのカウンターパートファンドが使用されている。プロジェクト終了後も研究予算を確保するためには公安省からの承認が必要である。
- ・ プロジェクト内の活動である現役警察官研修を一過性のものでなくPPA正規の活動とするためには同研修を制度化することが必要である。

#### 3) 技術面

- ・ C/Pの教育・研修能力及び研究能力はプロジェクト開始時点に比べ確実に向上しているが、自立発展性を確保しプロジェクトの効果と活動を継続、拡大をするためには、さらなる能力向上が求められる。

### 3-3 効果発現に貢献した要因

#### (1) 計画内容に関すること

- ・ 活動が円滑に実施され、4つの成果が概ね順当に現れている。

#### (2) 実施プロセスに関すること

- ・ 日本人専門家およびベトナム人プロジェクトスタッフとベトナム側C/Pとのコミュニケーションは円滑であり、良好な関係を保っている。

### 3-4 問題点及び問題を惹起した要因

#### (1) 計画内容に関すること

- ・ 開発した新教材の実際の授業での活用が不十分である。

#### (2) 実施プロセスに関すること

- ・ 一部機材の供与が遅れている。

### 3-5 結論

- ・ プロジェクトは終了時の目標達成に向け、一定の進展を見せている。

- ・ プロジェクトの妥当性は極めて高く、効率性は高い。有効性は一定水準程度にある。
- ・ インパクトについては、正のインパクトが観察されている。
- ・ 自立発展性の見込みについては、正負両方の要因があり、その有無を現時点で判断することは困難である。

### 3-6 提言

- ・ パイロット授業以外の通常授業等においても、開発した新教材、新教授法を用いた講義を極力多数実施し、教材、教授法のさらなる改善を図るべきである。
- ・ 公安省より交通安全研究センターの早期承認を受けるよう働きかけるべきである。
- ・ C/Pによるプロジェクト活動へのより主体的な参加が望まれる。
- ・ 現行 PDM のうち、上位目標を「ベトナムの警察研修機関における交通警察官研修が向上する」と簡素化、プロジェクト目標2を「PPA 交通警察学部指導教官の教授、研究能力が向上する」と実態をより反映したものに変更することが提案された。



**MINUTES OF MEETINGS**  
**BETWEEN**  
**THE PEOPLE'S POLICE ACADEMY**  
**AND**  
**THE JAPAN INTERNATIONAL COOPERATION AGENCY**  
**FOR**  
**THE PROJECT FOR STRENGTHENING THE TRAFFIC POLICE TRAINING IN**  
**PEOPLE'S POLICE ACADEMY AND POLICE TRAINING INSTITUTIONS IN**  
**VIETNAM**

The Japanese Mid-Term Review Team (hereinafter referred to as "the Team") organized by Japan International Cooperation Agency (hereinafter referred to as "JICA") and headed by Mr. Hozumi KATSUTA, visited the Socialist Republic of Vietnam from the 16<sup>th</sup> March to 25<sup>th</sup> April, 2012 for the purpose of conducting mid-term review of the Project for Strengthening the Traffic Police Training in People's Academy and Police Training Institutions in Vietnam (hereinafter referred to as "the Project").

During its stay in the Socialist Republic of Vietnam, the Team had a series of discussions and exchanged views with people and organizations concerned, in order to jointly evaluate the achievement of the Project.

As a result of the discussion, both sides agreed to the matters in the documents attached hereto.

Hanoi, April 23th, 2012



Mr. Hozumi Katsuta  
Leader of Mid-Term Review Team  
Japan International Cooperation Agency  
Japan

Prof. Dr. Nguyen Xuan Yem  
Rector  
The People's Police Academy  
Vietnam

*K.T. Giàu là 100.000.*



## Attached Documents

### Main points discussed

#### (1) Review Report

The attached Review Report was submitted to Joint Coordinating Committee (hereinafter referred to as "JCC"). And JCC confirmed and accepted that necessary information and result of the review prepared by both the Team and People's Police Academy (hereinafter referred to as "PPA") was fully reflected in the Review Report.

#### (2) Overall Progress of the Project and PDM revision

The Project has been implemented smoothly and effectively as a whole and efforts of the PPA and other counterpart organizations as well as JICA expert team are highly appreciated. However, in the course of the review, some difficulties were raised in the current Project Design Matrix (PDM) and necessary revisions were made as attached.

#### (3) Authorization of New Teaching Materials and Improvement of Teaching Methods

The Team requested PPA that the new teaching materials which have been developed in cooperation with the Vietnamese counterparts should be authorized timely in order to utilize those materials fully in the everyday lectures, thus ensure the sustainability of the Project.

The Team also explained that the improvement of teaching methods will be an indispensable component to enhance the capacity of the lecturers, and both sides agreed that the improvement of the teaching methods should be accelerated during the remaining Project's period.

PPA replied that the new teaching materials should be authorized within 2012, and effectively utilized not only in PPA but also other related institutions. And new teaching methods should be used as much as possible.

#### (4) Capacity Building for the Traffic Safety Research Center

PPA explained that Center for Traffic Safety Research was established in August, 2011 as a center under Traffic Police Faculty and seven staffs including three doctor's degree holders were assigned for the research activities. And Equipment provided by JICA was installed in the center.

Both sides confirmed that PPA will timely report MOPS for the earliest establishment of traffic safety research center as an independent research center under PPA, and strengthening and effective utilization of the center will contribute to the traffic safety nationwide. PPA understood the importance of capacity building for the Traffic Safety Research Center and committed continuous efforts on the research activities. *JTB*

*JTB*

(5) Improvement of Training Program for the active traffic police

The team explained the importance of the coordination of related activities among donors such as World Bank Project namely "Vietnam Road Safety Project (VRSP)" and JICA Yen Loan Project namely "Northern Vietnam National Roads Traffic Safety Improvement Project". JCC confirmed to support the training program for the active traffic police enhancing smooth coordination among the concerned authorities of Vietnam.

ANNEX I Mid-term Review Report

ANNEX 2 Revised PDM

HB      WIK

**Mid-Term Review Report**

**On**

**The Project for Strengthening the Traffic Police Training  
in People's Academy and Various Police Training Institutions  
in Vietnam**

**Hanoi, April 23, 2012**

## 1. Outline of the Mid-Term Review

### 1-1 Background of the Project

In the Socialist Republic of Vietnam (herein referred to as Vietnam), economic growth in recent years contributes to increase in the number of vehicles, and improvement of road infrastructure nationwide. However, the poor administrative situation in traffic safety sector caused careless traffic manner of the people and resulted in rapid increase in the number of traffic accidents. Then the number of fatalities exceeded 13000 in 2007, and it has become a serious social problem herein Vietnam.

In this background, even though the Ministry of Public Security (herein referred to as MOPS) and local public security entities have devoted themselves to traffic safety improvement measures, which covers various activities including traffic instruction, traffic management, analysis of traffic accident data, and so on, the severe situation in traffic safety still remains to be improved.

People's Police Academy (herein referred to as PPA) under the MOPS, is a high-ranked institution for the training/education of police staffs including traffic police, and re-training of senior police officials. And it also covers the training and education of trainers for local public security training institutions as the supervising organization. However, the present educational contents/methods for traffic safety in PPA does not fully reflect the above radical change of the traffic situation, and it requires the urgent improvement of their total training and educational system. Therefore, the Government of Vietnam requested the government of Japan for the technical cooperation for PPA regarding the strengthening the capacity on training and education for traffic police.

### 1-2 Members of the Team

Mr.Hozumi Katsuta	Team Leader	Senior Advisor,JICA
Mr.Izumi Sakaya	Evaluation Analysis	Prastha, Limited
Mr.Yoshitomo Kubo	Cooperation Planning	JICA Vietnam Office

### 1-3 Time Schedule

Review was conducted from April 16<sup>th</sup> to April 25, 2012.

*IRB* *Chid*

## **2 Purpose and Procedure of Mid-Term Review**

### **2-1 Purpose**

Mid-term review of projects is conducted at the mid-point of the projects. The review aims at examining the achievements and process of the project. Based upon its results, the original project plan may be revised or the operation structure strengthened, if necessary.

As nearly two years have passed since the inception of the Project in June 2010, the mid-term review was conducted by JICA mid-term review team members (hereafter "the Review Team").

### **2-2 Procedure**

The Review Team conducted literature and questionnaire surveys, and interviewed with the Vietnamese counterpart personnel, the Japanese experts and other persons related to the Project. The Review Team had a series of discussions among the Review Team members and with relevant parties. The Review Team analyzed the results of the surveys and reviewed the Project.

### **2-3 Analyzed Issues**

The Review Team analyzed i) achievement of the Project, ii) implementation process and iii) items based on five evaluation criteria.

#### **(1) Achievement**

Achievement of the Project, or Project performance up to the present, was measured in terms of Inputs, Outputs, and Project Purpose in accordance with the Objectively Verifiable Indicators of the PDM.

#### **(2) Implementation Process**

Implementation process of the Project was reviewed from the various viewpoints, such as technical transfer, communications among stakeholders, and monitoring process, to see if the Project has been managed properly as well as to identify obstacles and/or facilitating factors that have affected the implementation process.

#### **(3) Review based on the Five Evaluation Criteria**

The Review Team also assessed the Project from the viewpoint of the following five evaluation criteria.

##### **i) Relevance**

A criterion for considering the validity and necessity of a project regarding whether the expected effects of a project (or project purpose and overall goal) meet with the needs of target beneficiaries; whether a project intervention is appropriate as a solution for problems concerned; whether the contents of a project is consistent with policies; whether project strategies and approaches are relevant, and whether a project is justified to be implemented with public funds of ODA.

##### **ii) Effectiveness**

A criterion for considering whether the implementation of project has benefited (or will benefit) the intended beneficiaries or the target society.

##### **iii) Efficiency**

A criterion for considering how economic resource/inputs are converted to results. The main focus is on the

*MS* *ABC*

relationship between project cost and effects.

**iv) Impact**

A criterion for considering the effects of the project with an eye on the longer term effects including direct or indirect, positive or negative, intended or unintended.

**v) Sustainability**

A criterion for considering whether produced effects continue after the termination of the assistance.

WB Hill

### 3 Review of the Progress

#### 3-1 Inputs

Inputs from both the Japanese and Vietnamese sides, since its inception in June 2010 till March 2012, have been executed mostly as planned except provision of some equipment.

##### 3-1-1 Japanese Side

###### (1) Dispatch of Japanese Experts

A total of 9 Japanese experts have been assigned since the inception of the Project for a total of 44.0 man months as of the end of March 2012.

List of Japanese Experts

Name/Fields	First Year				Second Year			Total (M/M)
	2010		2011		2012			
	7-9	10-12	1-3	4-6	7-9	10-12	1-3	
Mr. Michimasa Takagi /Chief Advisor	1.50	1.67	1.30	0.53	0.33	1.47	2.10	8.90
Dr. Takeshi Saito /Vice Chief Advisor, Traffic Enforcement, TSRC	1.50	1.00		1.00	2.13	1.33	0.80	7.76
Dr. Tuenjai Fukuda /Road Traffic Law, Collaboration with other Projects	1.00	1.00	0.53	0.47	0.50	1.00		4.50
Ms. Ryoko Saito /Safety Education	0.70	1.23	0.67					2.60
Mr. Yuji Ohno /Traffic Regulation and Management, Training on Active Police Officers	1.00	1.00	0.37	0.13	1.00	1.13	1.43	6.07
Mr. Atsumi Kikuchi /Analysis of Traffic Accident Data	1.00	0.50		0.50				2.00
Mr. Kotoku Kawamura /Teaching Method, Training on Active Police Officers	1.00	1.00	0.37	0.03	1.00	1.10	1.57	6.07
Mr. Yosui Seki /Development of Teaching Materials, Collaboration with other Projects	0.60	1.53	0.87	0.50		1.00	1.10	5.60
Ms. Akiko Iwamoto /Project Monitoring	0.50							0.50
Total (M/M)	8.80	8.93	4.11	3.16	4.97	7.03	7.00	44.00

Note: As of End March, 2012

###### (2) Vietnamese Project staff

Several numbers of Vietnamese experts, coordinators, interpreters and secretaries have been assigned as Project staff for a total of 195.9 man months as of the end of March 2012.

###### (3) Counterpart Training

A total of 10 Vietnamese C/P were sent to Japan in September 2010 as counterpart training. A total of 7 Vietnamese C/P were sent to Japan in February to March 2012 as counterpart training. A total of 5 Vietnamese C/P participated in the seminar in Bangkok, Thailand in August 2011 under the third country training scheme.

###### (4) Provision of Equipment

Equipment was provided for the Project activities as listed below. All the equipment is properly utilized. However, provision of two police cars and 10 police motorbikes has been delayed for more than one year due to administrative procedure of Vietnamese side. They are scheduled to arrive in Vietnam around the end of April 2012.

*MB* *AK*



**List of Equipment**

No	Name of Equipment	Quantity	No	Name of Equipment	Quantity
1	Sound Recorder	4	16	Wireless Access point	1
2	Video Recorder	5	17	Internal - HDD	2
3	Photo-Camera	5	18	Desk and chairs for computer users	6
4	Multi media Projector	1	19	Working desks	1
5	Lowering set for the projector	1	20	Working chair	12
6	Electric Screen	1	21	Document cabinet	6
7	Network SWITCH	1	22	Oval shaped meeting table 800mm	1
8	Network SWITCH	1	23	Meeting chair	20
9	Desktop computers	6	24	Foldable chair	20
10	Computer Display	6	25	Flipchart with Silecom tripod	1
11	Laser printer (black-white)	1	26	Air conditioner	4
12	Color Jet Printer	1	27	Laptop	2
13	Scanner	1	28	Photocopy machine	2
14	UPS	1			
15	Modem router	1			

Note: As of End March 2012

**3-1-2 Vietnamese Side**

**(1) Appointment of Counterpart Personnel (C/P)**

A total of 22 staff members of People's Police Academy (PPA), including Project Director and Project Manager have been assigned as the counterpart personnel of the Project by the Vietnamese side. In the first year 15 C/P members were assigned for 5 working groups, and in the second year 19 C/P have been assigned for 4 working groups. From the first to second year 2 C/P members left the Project because of transfer.

**(2) Offices and facilities**

The office space and other facilities for the Project staff have been provided.

**3-2 Activities**

Most of activities (tasks) of the Project, as stated in Plan of Operation (PO) have been conducted without major delays compared with the planed schedule.

*JTB MK*

### 3-3 Outputs

The Team confirmed that the Project has so far fulfilled the following outputs along with the plan stated in PDM. The degrees of fulfillment are shown under each output.

Output 1: Improvement of training content on the "Road Traffic Law and Public Education", "Traffic guidance and control", "Traffic Enforcement", and "Collecting and Analyzing of Traffic Accident Data"

Indicators
1-1 New Teaching Materials are developed.

(Indicator 1-1)

A number of teaching materials have been already developed, including materials to support textbooks of 5 subjects, i.e. "Road Traffic Law", "Public Education", "Traffic Guidance and Control", "Traffic Enforcement", and "Collecting and Analyzing of Traffic Accident Data", teaching materials for exercise class (questions and sample answers) of 4 subjects, i.e. "Road Traffic Law and Public Education", "Traffic Guidance and Control", "Traffic Enforcement", and "Collecting and Analyzing of Traffic Accident Data", a material for teaching method and a material for training of active police officers. Some other materials are under preparation. Visual materials for 6 subjects are under preparation.

Output 1 has been in good progress for this stage but further improvement is required while utilizing them in actual lessons.

Output 2: Improvement of training method encouraging students' initiatives

Indicators
2-1 New syllabuses are formulated.
2-2 Pilot lessons using new teaching methods and materials are conducted.

(Indicator 2-1)

New syllabuses of 4 subjects, i.e. "Road Traffic Law and Public Education", "Traffic guidance and control", "Traffic Enforcement", and "Collecting and Analyzing of Traffic Accident Data" have been formulated for the usage of pilot lessons. It is recognized, however, that syllabuses need to be further improved and that more numbers of syllabuses need to be prepared to cover all lessons along with new teaching materials.

(Indicator 2-2)

Pilot lessons using new teaching methods and materials have been conducted 8 times for the 4 subjects so far.

As seen above, Output 2 has shown progress, but the quantity and quality of syllabuses and pilot lessons are yet to reach the satisfactory level.

Output 3: Establishment of Traffic Safety Research Center and implementation of research and development activities

Indicators
------------

*Handwritten initials/signature*

3-1 Traffic Safety Research Annual report under the name of PPA is publicized.

(Indicator 3-1)

Traffic Safety Research Center (TSRC) started its operation under the Project in September 2010 with 4 staff members and was officially established under the PPA with 7 academic staff members in August 2011. However, the Center has not yet received authorization by MOPS. Without authorization, the Center is not eligible for specified budget and activities are currently financed by Counterpart Fund of the Project. The Center had a research seminar in June 2011 where two study reports were presented, and held a presentation seminar in December 2011 where four study reports were presented and the result of one study has been applied to actual field level of police operation.

Output 3 has been in mostly achieved for this stage though PPA is still waiting for official approval by MOPS.

Output 4: Improvement of Training Program for the active traffic police

Indicators

4-1 Pilot trainings for the active traffic police are implemented.

(Indicator 4-1)

Training program for the active police, aiming at development of training capacity of PPA, is designed as collaboration with one of the components of other cooperation project between Vietnam and Japan, "Northern Vietnam National Roads Traffic Safety Improvement Project". The Project has finalized an agreement with this project to conduct pilot training for the active police officers and it will be implemented soon.

Output 4 has made good progress.

As seen above, 4 Outputs have been in fair progress a whole for this stage.

### 3-4 Project Purpose

Project Purpose:

1. Education contents of the PPA Traffic Police Faculty will be improved.
2. PPA Teacher's training ability for traffic police will be improved.

Indicators

1. Syllabus/Teaching Materials are authorized by PPA.
2. Lecture/exercise using project outputs is commenced.
3. Research Result including policy proposals is reported to MOPS and others.

(Indicators 1 and 2)

Syllabuses and teaching materials are already used in pilot lessons in PPA. So far pilot lessons have been conducted 8 times for 4 subjects; "Road Traffic Law and Public Education", "Traffic guidance and control", "Traffic Enforcement", and "Collecting and Analyzing of Traffic Accident Data". However, these materials

*SB* *Phu*

are yet to be widely used in regular lessons.

(Indicator 3)

As mentioned in Output 4 study reports prepared by Traffic Safety Research Center were presented in seminars, in which MOPS, among others, participated.

As long as current status of the above indicators is examined, the Project has already achieved Project Purpose to certain extent. However, in order to be used as main textbooks for lessons, teaching materials developed by the Project need to be officially approved by MOPS, which may take some time. Also, continuous efforts are required for the Traffic Safety Research Center to produce research reports with high quality.

### 3-5 Overall Goal

Overall Goal:

1. Capacity of graduates from PPA and traffic police leaders who participated training in PPA will be improved.
2. University/college Teacher's training ability for traffic police will be improved.
3. Recommendations by PPA on traffic accident measures will contribute to policymaking of Vietnamese government.

Indicators
1. Frontline traffic police begin new activities by using PPA's new training contents.
2-1 University/Colleges begin to utilize Teaching Materials made by PPA.
2-2 Lecturers of University/Colleges trained in PPA begin to train students.
3. Recommendations by PPA are reflected in traffic safety policies.

At this stage it is difficult to predict possibility of achievement of Overall Goal as these statements of overall goal will largely depend on activities which may follow the Project and all the indicators are hard to measure or assess at present.

### 3-6 Implementation Process

The Review Team confirmed that the implementation process of the Project has been generally appropriate. The following are the major points observed by the Team;

- (1) Communications and relations between Vietnamese counterpart personnel (C/P) and JICA Expert Team (Japanese Experts and Vietnamese staff) have been generally good, although at the initial stage of the Project it took some time for the both sides to understand mutually because of the gap of situation regarding traffic safety and culture in general between Vietnam and Japan. Project meeting are held weekly.
- (2) On the other hand, it seems that many of Project activities have been conducted by the initiative of JICA experts and firm project ownership by the Vietnamese side is yet to be seen.
- (3) Progress reports of the Project have been submitted regularly on schedule.

*JTB (VTC)*

- (4) JCC has been so far held three times as planned and functioning properly. Although Consultative Group (CG) meeting has been held less frequently, main members of the CG have provided advices to the Project time to time.

MB Hill

#### **4 Review Based on Five Evaluation Criteria**

The review based on five evaluation criteria is presented below.

##### **4-1 Relevance**

The Project is highly relevant because of the following reasons.

(1) Consistency with policy of the Vietnamese government

For Vietnam, which has been suffering from an increase in traffic accidents with rapid growth in the number of vehicles, traffic congestions and accidents are serious problems. The government has tackled with the traffic safety by issuing several decrees regarding traffic safety measures. Thus, the Project, aiming capacity development of traffic police training, perfectly matches the government policy.

(2) Consistency with needs of beneficiaries

The direct beneficiaries are Vietnamese C/P, staff of Faculty of Traffic Police, PPA. They are in dire needs of capacity development by introducing new teaching materials and methods to respond to current traffic situation. Therefore the Project is consistent with their needs.

(3) Consistency with ODA policy of Japanese Government

In Japan's ODA program towards Vietnam, formulated in 2009, "acceleration of economic growth and strengthening international competency" is one of focal areas. Cooperation in the field of traffic safety is consistent with "urban development and improvement in transportation, and communication network" which is one of the sub areas under that focal area.

(4) Advantage of Japan's cooperation in the Project

Japan, as a country which has long experiences in tackling traffic safety issues, has a comparative advantage in the field of traffic safety measures with abundant human resources. Especially various training institutions for police officers are precious resources for implementation of the Project.

##### **4-2 Effectiveness**

The Review Team considers that effectiveness of the Project in total is fair at the present stage.

As mentioned in 3-4, the Project has made steady progress towards achievement of the Project Purpose.

Positive factors contributing to effectiveness of the Project are, among others: i) all the 4 outputs of the Project have shown generally good results so far; ii) JICA Project Team (Japanese experts and Vietnamese staff) have good relations and communications with Vietnamese C/P, and iii) top management of PPA are cooperative and quite positive for the Project.

On the other hand, i) delay in installment of some equipment and ii) delay in MOPS's authorization of teaching materials, as well as authorization of the Traffic Safety Research Center, have slowed down the appearance of effectiveness of the Project. Especially, it is necessary to conduct as many practical lectures as possible using new teaching materials and teaching methods developed by the Project, with MOPS's authorization, in order that the materials and methods are further improved and is the staff upgrade their teaching skills. At the moment the new materials and methods are mainly used only in pilot lessons and hardly used in regular lessons extensively.

#### 4-3 Efficiency

The Review Team found that the degree of efficiency of the Project is fair judging from performances of inputs and outputs.

##### (1) Appropriateness of inputs

The Project has so far had 9 Japanese experts. They have efficiently managed to conduct various activities with sincere and responsible manners. Apart from Japanese experts, several numbers of Vietnamese staff members, including experts, have been appointed for the Project and played a significant role in implementation of the activities.

Allocation of the Vietnamese C/P is mostly appropriate for the activities and only a few C/P members have left the Project because of transfer, as mentioned in 3-1-2. However, it is noted by the Review Team that many of Project activities have been conducted by the initiative of JICA experts. One of the reasons is that many of C/P members are occupied with regular assignments such as conducting lectures and guiding students, unable to share sufficient time in the Project activities. Further involvement of C/P is much desired for strengthen the efficiency of the Project. It should be added, however, that the degree of C/P's active participation in the activities is increasing in the second year of the Project as they understand the merit of the Project more and more whereas now some of C/P, staff of TSRC, concentrate on the Project activities without having regular lectures.

Two opportunities of counterpart training in Japan in 2010 and in 2012 were beneficial for participants. The C/P's visit to Thailand in August 2011, including presentations in the seminar and a visit to Traffic Accident Research Center, also contributed to their capacity development.

For the Project, Japanese side has provided equipments, all of which are properly maintained in good conditions and well utilized. However, as already mentioned in 3-1, the delay of provision of two police cars and 10 police motorbikes has caused the delay in starting practical lessons.

##### (2) Achievement of outputs

As seen in indicators of Outputs in 3-3, at the present stage most of the Project outputs have been duly achieved for the mid-point of the Project

#### 4-4 Impact

At this stage it is difficult to judge the prospect of achievement of the Overall Goal, as seen in 3-5, as far as the indicators are concerned.

The Review Team found that implementation of the Project has some positive impacts which were not fully expected before the inception. One of them is that the introduction of new teaching methods in the pilot lessons under the Project, where more active initiatives by students are expected, has drawn much attention from other faculties of PPA than Faculty of Traffic Police. The new methods could be disseminated to PPA as a whole in the future. The other positive impact is that research studies by TSRC under the Project, which were already presented as mentioned in 3-3, have increased credibility of PPA so that MOPS has now requested TSRC to conduct a new research subject.

#### 4-5 Sustainability

The Review Team considers that sustainability of the Project is not certain judging from the current condition because there are mixed factors.

##### (1) Policy aspect

Because traffic safety remains an urgent and significant issue, the government policy is unlikely to change and MOPS will continue to support the activities on capacity development related to traffic safety improvement. Furthermore, the Minister of Public Security very recently stressed in his speech the importance of traffic safety measures and human resource development for that purpose.

##### (2) Institutional and financial aspects

As an important police training institution PPA receives stable budget from MOPS annually and the top management of PPA is very positive about the Project and is likely to continue to support the activities even after the termination of the Project.

Teaching materials developed by the Project are already used in pilot lessons and to some extent in regular lectures as well. However, it is necessary that the textbooks developed by the Project be totally receive authorization from MOPS so that these textbooks will be fully utilized and effects of the Project will continue and be extended to other traffic police training institutions.

The TSRC is yet to receive authorization as an official organization of PPA by MOPS. The authorization is required for financial sustainability of activities of the Center because current research activities are financed by the counterpart fund of the Project, which will terminate along with the Project period.

The effects of the pilot training of traffic police officers in actual service is not certain, which is one of Project activities expected to contribute to capacity development of PPA, as it has not started yet. To secure sustainability, however, establishment of the regular training system during the Project period will be necessary.

##### (3) Technical aspect

Since the inception of the Project, Vietnamese C/P staff has been upgrading their capacity and they themselves and Japanese experts recognize that technical capability on Project activities, including developing new teaching materials and methods and research on traffic safety is strengthened. However, at the moment it is uncertain that the Vietnamese side is capable enough to technically continue and expand activities after the termination of the Project.

*JAB MCE*



## 5 Conclusions

The Review Team judges that the Project has shown appropriate progress as Outputs and Project Purpose have been duly achieved for the mid-point of the Project.

From the viewpoint of five evaluation criteria, the Review Team considers that at the time of mid-term review "relevance" of the Project is very high, "efficiency" is high while "effectiveness" is fair only. As for "impact", the Project has so far had some positive impacts through pilot activities. It is difficult to judge the security of "Sustainability" of the Project as there are uncertain factors at this stage.

## 6 Recommendations

The Review Team recommends the following points after studying various aspects of the Project.

### 1) More utilization of new materials and methods

At the moment opportunities are rather limited for staff of Faculty of Traffic Police, PPA to use new teaching materials with new teaching methods developed by the Project. Apart from pilot lessons, new materials and methods should be introduced and utilized in as many opportunities as possible, including regular lessons, for further improvement of the materials and capacity development of the staff.

### 2) Authorization of TSRC

Traffic Safety Research Center needs authorization by MOPS to continue and enhance its research activities. Efforts should be made to obtain official status at earliest stage.

### 3) Further commitment by Vietnamese C/P

More positive involvement or strong commitment of Vietnamese C/P in the Project activities is desired to confirm ownership of the Project by the Vietnamese side, as at the moment Japanese experts take initiatives in many activities.



### 4) Revision of PDM

It is suggested that Project Design Matrix be revised so that logical framework of Project will be made clearer. Specifically, it is proposed that narrative summary of Overall Goal be simplified into one sentence by uniting current three items and that Project Purpose include improvement of research ability of PPA staff.

## ANNEX II PROJECT DESIGN MATRIX (PDM)

Project Title : Project for Strengthening the Traffic Police Training in People's Police Academy and Various Police Training Institutions in Vietnam  
 Counterpart : People's Police Academy (PPA)  
 Target Group : Teachers of Traffic Police Faculty in PPA, Active Traffic Police in the local governments

Overall Goal	Major Objectives	Means of Achievement	Important Assumption
<p><b>Overall Goal</b></p> <p>Traffic police training in police training institutions in Vietnam is improved.</p>	<p><b>Objectively Measurable Indicators</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>University/Colleges begin to utilize Teaching Materials made by PPA</li> <li>Lecturers of University/Colleges trained in PPA begin to train students</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>- Teaching materials of university/colleges</li> <li>- Official documents</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>- Universities/College will appreciate new teaching materials</li> <li>- MOPS and others(NTSC, MOT etc.) will understand</li> <li>- Necessary financial resources will be secured</li> </ul>
<p><b>Project Purpose</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>Education contents of the PPA Traffic Police Faculty will be improved</li> <li>PPA Teacher's training and research ability for traffic police will be improved</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>- Syllabus/Teaching Materials are authorized by PPA</li> <li>- Lecture/exercise using project outputs is commenced</li> <li>- Research Result including policy proposals is reported to MOPS and others</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>- Authorization documents of new syllabus/Teaching Materials</li> <li>- Record of meetings with government on research report</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>- Lecturer/teacher trained will not resign PPA</li> </ul>
<p><b>Outputs</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>Improvement of training content on the "Road Traffic Law and Public Education", "Traffic guidance and control", "Traffic Enforcement", and "Collecting and Analyzing of Traffic Accident Data".</li> <li>Improvement of training method encouraging students' initiatives,</li> <li>Establishment of Traffic Safety Research Center and implementation of research and development activities, and</li> <li>Improvement of Training Program for the active traffic police.</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1-1 New Teaching Materials are developed</li> <li>2-1 New syllabus are formulated</li> <li>2-2 Pilot lessons using new teaching methods and materials are conducted</li> <li>3-1 Traffic Safety Research Annual report under the name of PPA is publicized</li> <li>4-1 Pilot trainings for the active traffic police are implemented</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>- Draft of syllabus</li> <li>- Teaching Materials</li> <li>- Record of pilot lessons</li> <li>- Traffic Safety Research Annual Reports</li> </ul>	
<p><b>Activities</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>0-1 Formulation of appropriate organization and obtain necessary official approvals for the smooth project implementation</li> <li>1-1 Identification/Finalization of Detail Work Plan (Joint activities)</li> <li>1-2 Introduction of the training contents and method in Japan</li> <li>1-3 Preparation of new texts books and other teaching materials for the subjects on the "Road Traffic Law and Public Education", "Traffic guidance and control", "Traffic Enforcement", and "Collecting and</li> </ol>	<p><b>Inputs</b></p> <p>(Japanese side)</p> <p>(a) Experts</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- Chief Advisor,</li> <li>- Road Traffic Law</li> <li>- Traffic Safety Education</li> <li>- Traffic Guidance and control</li> <li>- Traffic Enforcement,</li> </ul>	<p>(Vietnamese side).</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- Counterpart personnel (Administration staff and trainers)</li> <li>- Office Space</li> <li>- Counterpart budget</li> </ul>	<p>None</p>

Analyzing Skill of Traffic Accident Data	Traffic Accident Data Collecting and Analyzing	Assumption
<p>None</p>	<p>— Traffic Accident Data Collecting and Analyzing            — Teaching method            (b) Equipment and reference material for Mini library etc.            (c) Training in Japan            (d) Seminars etc.</p>	<p>Examining of the new teaching methods for the Traffic Police Faculty            2-2 Formulation of syllabus based on the new teaching method and materials            2-3 Implementation of pilot lessons according to the syllabus formulated            2-4 Finalization of the syllabus and teaching materials            3-1 Approval of the legal framework of Traffic Safety Research Center            3-2 Formulation of an initial work plan including activities, budget, staff and equipment            3-3 Implementation of initial activities in the Research Centre            3-4 Preparation of an annual research paper and organization of the research workshops            4-1 Examination of the training needs for the traffic police on the actual fields            4-2 Coordination with other related projects such as WB-VRSR (Vietnam Road Safety Project) and JICA Northern Traffic Safety Project            4-3 Preparation of a training program and materials            4-4 Implementation of pilot training courses and finalization of the training program and materials</p>

*Handwritten initials/signature*

